

2022年11月7日

日本生物教育学会 ロゴマークデザイン 第2次選考結果報告


日本生物教育学会
ロゴマーク選考委員会
委員長 大鹿聖公

学会ロゴマーク第2次選考結果報告

本学会にて募集を行ってございました学会ロゴマークデザインについて、総数 257 点の応募をいただきました。応募いただきました皆さんありがとうございました。応募いただいた作品について、本学会のロゴマーク選考委員会により、第1次審査、第2次審査を実施し、最終候補作品4点が決定いたしましたので、報告させていただきます。

今月下旬より、本学会ウェブサイトにて、会員の皆さんによるオンライン投票を実施いたします。ふるって投票いただければと思います。投票結果については、2023年3月の全国大会にて紹介させていただきます。よろしくお願ひします。

最終候補作品

NO. 1		ロゴには生物学の視点から智力ある豊かな人間を育てる教育の方向性を示しました。全体の形として芽生えと、ヒトの姿、さらに、水中から始まった生物進化をイメージしました。中央の青色の部分は芽生えの胚軸の部分に相当しますが、智の象徴として積み重なる本としてデザインしました。また、この部分はDNA塩基の対合部も暗示しました。中央部の頂点には活力溢れるヒトの頭を赤でデザインしました。緑の部分は双葉とヒトの両手をイメージしていますが、多様に進化した生物の系統樹、さらに今日の教育で重視される資質・能力も暗示しています。学会員以外の人にも、何のロゴかわかるよう、学会名を日本語および英語の頭文字で右方に示しました。
----------	---	--

<p>NO. 2</p>	 <p>■ 027-919 (15/201)</p> <p>SBSEJ 日本生物教育学会</p> <p>■ 027-919 (15/201)</p> <p>SBSEJ 日本生物教育学会</p>	<p>【製作意図】生物教育は誰しものが何らかの形で幼少期から触れることになる学問の分野です。世界で共に暮らす様々な生物について知識を受け継いでいくことを、親しみやすく感じてもらえるようにイラストの要素を取り入れたロゴマークをデザインいたしました。</p> <p>【デザインコンセプト】角帽(モルタルボードハット) + 代表的な生物の記号的イメージ + 多様性をイメージしたカラフルな色彩教育や学問の象徴である角帽子と様々な生物のイメージをデフォルメした姿で組み合わせました。生物のイメージを具体的に限定させないことによって各々が親しみがある生物の姿を自由に想像することができます。</p>
<p>NO. 3</p>	 <p>一般社団法人 日本生物教育学会</p> <p>一般社団法人 日本生物教育学会</p>	<p>コンセプトは「生物教育とよりよい生物共生」。顕微鏡や図鑑・動植物・系統樹をモチーフとし、さまざまな生物を知ること・学ぶことで生態系を守り、生き物のより良い共生等、生態系全体に有益であることを表現するとともに、生物教育の理論と実践の研究の大切さ、これからの生物教育の向上と発展を表しました。</p>
<p>NO. 4</p>	 <p>一般社団法人 日本生物教育学会 The Society of Biological Sciences Education of Japan</p> <p>一般社団法人 日本生物教育学会 The Society of Biological Sciences Education of Japan</p> <p>一般社団法人 日本生物教育学会 The Society of Biological Sciences Education of Japan</p>	<p>マークは、楽しげに手を広げた子供を中心に、ゾウリムシから象まで、色々な生物を配置し、生物の多様性を表しています。全体のフォルムを三角形にしたのは、そもそも三角形は始まり・中間・終わりを表し、一説には古代の人たちが最も神聖視していた形ともいわれ、成長を意味しているとのこと。「日本生物教育学会」が、成長し続けるようにという願いを込めています。</p>